

支援によって、子どもたちが未来に希望を持ち、 その希望が地域全体に 満ち溢れるよう になりました



子どもたちが安心して
笑顔で生活できる地域になりました

5年生の奨学金試験に合格したサチニちゃん(10歳)のことは、学校はもちろん、また村全体の誰もが知っています。試験でよい成績をおさめたサチニちゃんが、学校の制服を着て誇らしげな笑顔で写っている写真は、学校の校長室に掲げられて、ほかの生徒たちの大きな励ましとなっています。

ヤカウェワ小学校は小学1年生から5年生まで、26人しか生徒がいない最も貧しい家庭の子どもたちが通う村の学校です。制服は1枚だけ、わずかな本しか買えず、靴も履けず、バス代を払うことも出来ない子どもたちが通っており、少しでも余裕のある家庭の子どもたちは村の外のもっと良い学校に通っています。以前、この小さな学校では、奨学金試験に合格することなど考えられず、子どもたちが夢を持つチャンスなどありませんでした。



「娘は何にでも関心を持ち、分からないことは人に聞き、本を読むのが好きで、新しい知識が増えました」と語る母親のニルカさんと一緒に

貧しさゆえ学業を中断しなくてはならない子どもたちがいるこの地域で、ワールド・ビジョンでは、より良い教育が受けられるよう、学校や子どもたちに勉強に必要な学用品や教材などを支援した結果、子どもたちの学力はどんどん向上していきました。

ランジス校長は語っています。「この小学校の生徒が試験に合格するのは、学校が始まって以来初めてのことです。ほかに4人の5年生が今回試験を受けましたが、あと少しで合格できる成績でした。これは今までにない快挙です！」ランジス校長は学校の壁いっぱい、一生懸命勉強に励む生徒たちの写真を貼ることを考えています。

今では、サチニちゃんの合格だけに留まらず、学校全体がさらなる合格者に期待を寄せています。



「好きな科目は英語です。時間があるときに本を読むのが大好き。大きくなったらお医者さんになりたいです」と語るサチニちゃん

1.「経済開発」 家庭の経済状況が改善し、子どもたちの教育・健康や栄養状態に大きく貢献しました

2.「教育」 就学率がほぼ100%になり、落第する生徒が減少しました

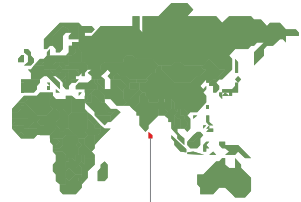
3.「保健衛生」 地域全体の保健衛生に対する意識が向上し、子どもたちが健康に暮らせる環境が整いました

4.「市民組織の育成」 女性の社会参加と意思決定プロセスへの参加が促進され、子どもグループも設立され活発に活動しています

1999年度、カビティゴッラワ地域開発プログラム(以下ADP)は、貧困に苦しむ人々の生活向上を目指して活動を始めました。13年間にわたる皆さまのご支援により、子どもたちと人々の暮らしは改善し、自分たちで地域の発展を担っていく実力がつきました。ここに深い感謝をもって、ご支援の成果を報告いたします。

ADPの最終目標(1999年度～2012年度)

「貧困から脱却し、経済開発、教育分野、保健衛生、市民組織の育成などの分野で持続的な開発活動を行い、住民自らが生活を改善していく能力を身につける」



支援開始前は子どもたちは学校に通うことは困難でしたが、現在は就学率がほぼ100%まで回復し、子どもたちは笑顔で学校に通っています

支援地概要

カビティゴッラワADPは、スリランカ北中央州アマラーダプラ県23の郡の内一つ、カビティゴッラワ郡を対象に1999年から支援活動を実施してきました。カビティゴッラワ郡の人口は21,966人で、119村に6,959世帯が暮らしています。宗教は仏教徒が大部分(93%)を占め、残りがイスラム教徒で構成されています。

この地域では収入の90%を溜め池灌がいの稲作に頼っていますが、トモロコシ、ヒヨコマメ、トウガラシやその他の野菜栽培も収入源になっています。

ADPは4つの村から始まり、2001年にはカビティゴッラワ郡の26村の内13村を支援するまで地域を拡大して活動してきました。

対象郡	カビティゴッラワ郡
対象村数	13村
活動期間	13年(1999年度-2012年度)
支援を受けた人々の数	10,550人
対象世帯数	5,575世帯
チャイルド数(最高時)	1,200人
住民組織数	28団体
子どもグループ数	28団体
就学前教育施設(幼稚園数)	28カ所



カビティゴッラワ群の13村、最大で1,200人のチャイルドを支援しました

支援前の問題点

1995年にLTTE[※]の脅威がカビティゴッラワ郡の地域におよぶようになり、内戦が拡大し、いくつかの村でも多くの人々が犠牲となりました。政府により1997年から徐々に内戦が抑えられ、国内で避難していた住民の自分の村への帰還が始まりました。ワールド・ビジョン・スリランカによる支援は、当初は避難民への緊急支援が中心でしたが、帰還民の定着と地域のニーズに合致したADPが開始されました。

支援開始前は、大部分の世帯が貧困ラインを下回る生活を余儀なくされていただけでなく、内戦が拡大する不安から、精神的にも将来に希望を見いだせない不安定な生活を送っていました。その中で最も脆弱な存在であったのは子どもたちで、学校へ通うことは困難であり、全く学校へ行ったことがない子どもの数が7%に上っていました。また、いくつかの学校は避難民の避難所として使用されたり、休校を余儀なくされていました。衛生状態も劣悪で、衛生的なトイレを使用できたのは68%の世帯、安全な水を使えたのは42%の世帯だけでした。また、

この頃マラリアの蔓延も大きな問題になっていたにも関わらず、医療施設や保健サービスは不十分で、30%以上の子どもが栄養不良の状態でした。インフラも内戦により大きなダメージを受けました。大部分の道路は地雷や爆弾により破壊され、交通アクセスもマヒし、離散した地域の人々への教育や医療、生計へ大きな影を落としていました。

また、社会的な問題も大きく、特にアルコールの高い消費量や、夫による妻への暴力、高い自殺率など多くの問題を抱えていました。

こうした中、カビティゴッラワADPでは、保健衛生、教育、経済開発、市民組織の育成などの面で、支援地域の人々が持続できるような開発が行われ、地域の子もたちが健やかに成長できるような地域になることを目指して支援活動を行って来ました。

※LTTE：タミル・イーラム解放のトラ

スリランカ北部、東部にタミル族の独立国家タミル・イーラムを建国し、スリランカからの分離独立の獲得を主張して設立された武装勢力。2009年5月にLTTEは敗北宣言し、スリランカ政府とLTTEの四半世紀以上にわたる内戦は事実上終わりを告げた

年度	支援による主な活動	スリランカの出来事
1999	ADP開始、4村が活動対象とされるマラリア対策事業の実施	クマーラトゥンガ大統領再選
2000(-01)	4つの住民組織のホールの建設(第1次)	ノルウェーが和平への仲介開始
2001	サイクロン被害に対する緊急援助	
2001(-04)	農道の整備 灌がい用ため池の修復事業 学校校舎の修復	 新しく設置された衛生的なトイレ 【2001年度-2006年度】
2001(-06)	衛生的なトイレの設置 安全な水のため井戸の設置	
2002		ノルウェーの仲介による政府とLTTEとの停戦合意成立
2004(-07)	4つの住民組織のホールの建設(第2次)	スマトラ沖大地震発生、インド洋大津波強襲
2005	ヤカウェワ村での橋の建設 教育・農業局の研修施設の建設	ラージャパクサ大統領就任
2006	「スリランカを知る旅ツアー」実施	バス爆破テロ
2008	住民組織の事務所建設 ムツハタ図書館の建設	停戦合意失効
2009		政府軍、北部LTTE支配地域を全て奪取。内戦終結
2010	精米センターの建設	ラージャパクサ大統領再選



ムツハタ図書館が完成し喜ぶ子どもたち【2008年度】



修復された校舎で勉強に励む生徒たち【2008年度】



【2006年度】「地球あちこちスリランカを知る旅」にてスポンサーを歓迎する子どもたち。スポンサーとチャイルドは楽しい時間をともに過ごし、スポンサーには、ADPの進捗状況も確認していただきました

●支援の成果

95%の家庭において農業収入が向上しました。灌がい用ため池を修復し、雨水を集めて利用する貯水タンクが設置され、灌がい農業が促進されたことが収入向上の理由の一つです。畜産業も振興され、家畜飼育からの収入も向上しました。さらに、農村部と幹線道路を結ぶ農道の整備を行い、農産物の販路の拡大を図りました。

小規模ローンなどを利用した小規模事業(ビジネス)が促進され、各家庭の収入や貯蓄が増加しました。一方、学校での就学を継続できなかった青年たちに職業訓練などを受ける機会を提供することによって、収入の機会を創出しました。

これらのことを通じて、家庭の経済状況が改善され、子どもたちの教育や健康、栄養状態が向上することにつながりました。



畜産業も振興され家畜飼育からの収入も向上しました



小規模ローンの貸付を行うビジョン・ファンド・ランカ[※]の支援を受け、小規模事業が促進され各家庭の収入が増加しその影響で貯蓄も増えました

※ビジョン・ファンド・ランカ:ワールド・ビジョンの姉妹組織であり、人々が貧困を解決し自立することを目的に設立された、小規模ローンの貸付を行なう金融組織です。貸付の原資は、ワールド・ビジョンから支援されています

1999年度 → 2012年度

農業用水

慢性的に不足していた → 灌がい用ため池と井戸が充実したことにより安定的供給が可能になった

農産物価格

低い価格で買い取られていた → 高い値で買い取られるようになった

農作物の運搬道路

未整備 → 農村部と幹線道路を結ぶ農道が整備された

家畜生産

少量 → 研修により飼養技術が向上し増加。子どもの栄養状態の改善にも寄与

定職についている人の割合

10%未満 → 65%に増加

貧困層の割合

2002年度:60% → 26%



農作物を手にとる子ども。支援を通して農業収穫量が大幅に増えました

教育

就学率がほぼ100%になり、中退する生徒が減少しました

●支援の成果

ADPでは、学校施設の整備や修復、子どもたちへの課外授業の実施や文房具、教材などの配布を行い、教育の質的向上を図ってきました。その結果、就学率がほぼ100%となり、中退生(ドロップアウト)が減少しました。中学卒業レベルの試験を受ける生徒の割合が80%に伸び、高校卒業レベルの試験を受ける生徒の割合は50%にまでなりました。また、奨学金を受けることで、高等教育に進む生徒の数も増加しました。

一方、就学前教育の促進にも取り組み、28カ所の就学前教育施設で先生への研修や必要な備品などを提供し、現在は支援地域の3-5歳の子ども90%以上が就学前教育を受けるようになりました。

また、子どもグループの結成やネットワーク構築を支援し、現在は全てのグループが郡の児童福祉を扱う部署に登録され、子どもの声にも耳が傾けられるようになりました。



机やイスなど学校用家具の搬入をする人々。学校の整備や修復、子どもたちへの文房具や教材などの配布を行い、その結果、就学率はほぼ100%になりました



教室で勉強する生徒たち。奨学金申請のためのテストを受けられるまで学力が向上しました



就学前教育は子どもの発達に非常に有効であると考え、幼稚園への支援も行いました

1999年度 → 2012年度

小学校の入学率

82% → 97%

学校などの教育施設

非常に不十分で保守管理もできていなかった



90%以上が適切に管理され子どもたちや保護者も満足している

幼稚園の管理基準

管理する基準もなかった



80%の先生は資格を持ち、適切に教育・管理されるようになった

子どもグループの数

0 → 28の子どもグループが結成され、活発に活動している

保健衛生

地域全体の保健衛生に対する意識が向上し、子どもたちが健康に暮らせる環境が整いました

●支援の成果

ADPでは、保健のモデル村を5つ設置して、健康を守るための知識や行動を啓発・普及し、水を媒介とする疾病の予防や地域全体の健康状態の改善に取り組みました。また、井戸の設置により安全な水が利用できるようになり、トイレの設置によって衛生状態が改善されました。一方、保健サービスセンターの施設を修復し、機材を整備することによって、適切な医療サービスが受けられるようにしました。公的医療機関と地域のネットワークを強化することによって、診療などの医療サービスや必要な薬剤の処方などが受けられるようになりました。一方で、地域の母親を対象に子どもの栄養に関する意識や栄養価の高い食事の作り方の講習を実施し、子どもの栄養状態の改善に取り組みました。また、HIV/エイズやデング熱などの感染症に関する啓発活動も行い、予防に対する意識を高めました。



蚊帳を受け取る子ども。支援前、マラリアなどの感染率が高かった地域が今ではその脅威を最小限に抑えられるようになりました



安全な水が確保できる井戸の設置により安全な水の利用率が85%以上になりました



啓発活動の結果、母乳を与える母親の割合が37%からほぼ100%になりました

1999年度 → 2012年度

安全な水の利用率

42% → 85%以上

トイレの利用率

68%未満の人がトイレを使用していた → 70%以上の人が衛生的なトイレを使用している

下痢疾患やマラリアの脅威

高かった → 最小限に抑えられた

医療施設や設備

極めて不十分：40%しか1時間以内に診療所に到着できなかった(2002年度)



適切な医療施設・サービスが受けられるようになった(100%が1時間以内に診療所に到着できる)

人々の疾病予防に対する知識

極めて低く知識も限られていた → 85%の人々が疾病予防の知識がある

生後6カ月以内の赤ちゃんに母乳を与えている母親の割合

37%が与えている → ほぼ100%が与えている

市民組織の育成

女性の社会参加と意志決定プロセスへの参加が促進され、子どもグループも設立され活発に活動しています

●支援の成果

市民組織を設立・育成していく中で、女性の社会参加と様々な意思決定プロセスへの参加が促進されました。また、住民委員会が2007年に会社法で認可され、理事会や事務局などが適正に運営していくことができるようになりました。また、28の子どもグループが設立され、活発に活動しています。



住民委員会のミーティングの様子。ワールド・ビジョンが撤退したあとは住民委員会を中心に活動が行われています



子どもクラブで演劇の準備をする子ども。支援開始前は子どもクラブがありませんでしたが、今では28ものクラブが誕生し活発的に活動しています

1999年度 → 2012年度

住民委員会

存在しなかった → 住民組織が設立され、会社法によって認可された

NGOネットワーク

存在しなかった → 国際NGOを含むNGOネットワークが出来上がった

市民組織

限定的な活動をする市民組織のみ → それぞれの村に自助グループなどからなる市民組織が活動している



住民への啓発活動や研修などを通して住民の自立心を育ててきました

支援終了後も活動は続いていきます — プログラムの持続性・発展性 —

2012年6月でワールド・ビジョンの全ての活動は終了し、ワールド・ビジョンと住民委員会の間で合意書を締結し、ワールド・ビジョンが管理してきた活動や資産、書類などを移管するとともに、住民委員会が地域のさらなる発展のために中心的役割を担っていきます。合意書では、地域の最も脆弱な人々への支援が継続されるように、今後の住民委員会の利益の5%が割り当てられることが明記されます。住民委員会はローンの貸し出し事業などを行い、地域住民の農業や住宅、小規模ビジネスなどの必要に応じた経済活動に活用されていきます。これまでワールド・ビジョンの支援で実施してきた様々な活動をさらに発展させ、地域の子どもたちや人々の生活の改善に貢献していくことが大いに期待されます。



今後は住民委員会を中心に地域の子どもたちや人々の生活の改善に貢献していくことが多いに期待されます

地域リーダーから感謝のメッセージ

ワールド・ビジョンによって、私たちは力を合わせて一致することの重要性を教えられ、2002年に住民組織であるカピティゴッラワ地域総合開発組織(KIRDO)を設立しました。以降、私たちは、子どもたちと地域の人々のためにワールド・ビジョンとともに多くの活動を行ってきました。いろいろな問題に直面し活動の中断を覚悟したこともありますが、ワールド・ビジョンはいつも私たちとともにいて、問題解決に力を貸してくれました。スポンサーの皆さまのご支援のおかげで、ワールド・ビジョンを通して目標に向かって歩み続ける力と、勇気を得ました。私たちは今、胸を張ってお別れを言えます。本当にありがとうございました。

地域リーダー
U.B.R. バスナヤケ



ADPマネージャーから感謝のメッセージ

カピティゴッラワADPに住む子どもたちや、その家族の生活の变革をこの目で確認することができたことを、光栄に思っています。ADPの活動中に、30年以上続いた内戦が終結したことは、とても喜ばしい事です。

地域の人々と私たちワールド・ビジョンスタッフは、内戦による人々の悲しみを何年にもわたって見てきました。内戦という困難の中、貧困とも戦いながら進んできたこの13年を、誰もが感謝と喜びをもってかみしめています。内戦が終わったものの傷は残っています。しかし、住民は、今、プログラム活動の“実り”を享受し自信に満ちています。子どもたちの幸せのために、プログラム終了まで支援を続けてくださった、親愛なるスポンサー皆さまに心より深く感謝申し上げます。スポンサーの皆さまの上に、神の祝福が末永く注がれますようお祈りしています。

私たちの希望と祈り「すべての子どもに豊かないのちを」

カピティゴッラワADPマネージャー
ピラジ・アベセケラ



●お問い合わせは・・・ 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359
e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ:<http://www.worldvision.jp/>

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。